

令和 3 年度

# 研修集録



秋田県立平成高等学校

〒013-0101  
秋田県横手市平鹿町上吉田字角掛 60  
TEL (0182) 24-1195  
FAX (0182) 56-3008

## 「#教師のバトン」

校長 佐藤久男

教員の仕事は超過勤務が生じたり、精神的に強い負担がかかる場面もあるなど大変だが、生徒が成長していく過程に寄り添うことができる、とてもやりがいのある仕事だ。毎日会っていると成長の様子は見えないが、生徒は1年1年、身体も心も能力も大きく成長しており、3年間では全く違う人間に成長している。生徒や保護者に気持ちや言葉の意図が伝わらずに困惑することもあるが、笑顔やお礼のひと言で全てを忘れてともに喜んでしまう。

令和4年度からは新学習指導要領による授業が始まり、消費者教育や育てたい能力・態度の理念等は先取りで指導することとなっている。ICT教育の環境も整備され、コロナ禍も相まって令和3年度には生徒一人一人にタブレットが配備された。指導内容も変わり、指導方法も変わらなければいけず、その実践に向けた研修に必要な時間は大変なものになる。しかし日々の業務に追われ、なかなかその時間を確保することができないでいるというのが現状ではないだろうか。

学びたい生徒に勉強を教えるのは比較的たやすい。そうではない生徒に興味を持たせ、工夫し、時間を掛けながら授業を通じてその教科・科目で目標とする態度や能力を高めるのも教育の大事な使命である。本校入学生の学力検査の得点は必ずしも高くはないが、幅広い能力や進路希望を持った生徒が在籍しているのが実態であり、それに応じた教育を行い、社会を担う人材に育て上げ世に送り出すのが私たちの役割である。

大学で学んだ学問的専門性を發揮し、教科・科目の奥深さを伝える高いレベルの指導は本校ではなかなかできないが、わかりやすい授業、意欲を高める指導、HRや生徒会活動、行事や部活動を通じての生活指導、進路指導、道徳指導などのキャリア教育・生き方指導等、多種多様な教育活動をこれほどにも熱心に行っている。本稿は本校の実態に応じた1年間の研修成果をまとめたものである。ぜひたくさんの方々にご覧頂き、ご指導頂ければ幸いである。

今年度、本校の教員志望の生徒が第一志望の大学に合格した。自分が学んだ商業科の教員となり、所属していた部活動の指導もしたいと熱く抱負を語っていた。本校の教員の指導を受けて育った生徒が同じ教員を目指すことはとてもうれしいことである。文部科学省がSNS上で始めた「#教師のバトン」が長時間労働を嘆く投稿で炎上しているという報道があった。責任が重く苦労の割に報酬は少ないかもしれないが、若者の育成を担う、誰かがやらなければいけない大事な仕事である。バトンを受け継ぐ人のためにも、研修の成果をこれからもしっかりと積み重ねていきたい。

# 令和3年度 研修集録 目次

卷頭言 「#教師のバトン」 校長 佐藤久男

## 1. 校内研修

- ①各教科の研修記録 P 3 ~ 1 2  
(国・地公・数・理・保体・芸・英・家・商・情)
- ②相互授業参観 (9月)
  - ・実施要項 P 1 3
  - ・相互授業参観のまとめ P 1 4 ~ 1 5
- ③校内授業研究会 (10月22日) (英語・地歴公民)
  - ・開催要項 P 1 6
  - ・学習指導案 ・授業研究協議会記録 P 1 7 ~ 2 5

## 2. 校外研修

A 講座(年次研修)

- ・実践的指導力向上研修講座 栗田未来 P 2 7 ~ 2 8
- ・高等学校新任学年主任研修講座 佐々明子 P 2 9

B 講座

- ・高等学校保健体育科授業の充実 ..... 佐藤浩樹 P 3 0
- ・これからの運動部活動の在り方 ..... 三浦史聖 P 3 1

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(国 語 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	言語活動の充実をはかり、国語を的確に表現する力を伸ばすための指導法を工夫する。

### I 重点目標

- 1 語句の読み書きと語意を理解する力を高め、その定着を図る。
- 2 話し合いや発表の場面での適切な表現を身につけさせる。
- 3 文章の構成や展開を意識した表現を身につけさせる。

### II 研修計画

- 1 校内漢字力テストで語彙力の充実を図る。漢字検定の受検に際し、目的意識を高めて資格取得を目指す。
- 2 授業内容を精選し目標を簡素化するとともに、必要に応じてグループでの話し合いや発表を組み込み、達成感のある授業を工夫する。
- 3 家庭学習の習慣が身につくように予習項目をはつきりさせるとともに、小テストを定期的に実施する。

### III 授業改善計画

- 1 前時の内容確認や本時の振り返りに生徒の発言や話し合いを取り入れる。
- 2 暗唱や音読を積極的に実施し、多様な表現法を学ばせる。

### IV 実践の成果と今後の課題

- 1 校内漢字テストは計画通りに実施することができたが、準2級の範囲に入ってから平均点が下降しており、不合格者が半数を超える回もある。一方で高い目標を持ち、平均点が95点以上という生徒も多い。学習意欲の個人差が大きく、語彙力の差も広がっていると感じる。また、今年度は漢字検定が新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となり、生徒のモチベーションの低下が心配される。日々の学習の積み重ねが語彙力の向上に繋がることを実感できるような指導をしていきたい。
- 2 授業については焦点を絞り、目標を簡素化することができた。また、ペアワークやグループの話し合いを適宜取り入れるとともに、ICTを用いることで生徒の意欲を高めることができた。音読はすべての科目において積極的に取り入れ、小テストはすべての科目ではないが継続的に実施することができた。しかし各種調査を見ると、家庭学習の習慣が身についている生徒が少ないという結果だった。家庭学習に繋がるような指導を工夫したい。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(地理歴史・公民科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	自ら学ぶ意欲を引き出すとともに、広い視野から社会事象をとらえて 分析し、思考し、表現する能力・態度の育成。

### I 重点目標

- 1 学習意欲・基礎学力の定着を高めるために、指導方法の工夫や教材の開発などに努める。
- 2 各科目相互の指導事項・指導内容の連携を図り、社会に対する多角的視野の育成を目指す。
- 3 多様な進路志望を考慮しつつ、指導内容の精選や適切な指導に努める。

### II 研修計画

- 1 指導方法の研究と授業での実践。
- 2 資料の収集と教材化、および効果的提示方法の研究。
- 3 科内での指導事項・指導内容等の検討。

### III 授業改善計画

- 1 発問の工夫（一問一答的な用語確認にとどまらず、「なぜ」を問うことで、考察させ、説明させる）
- 2 視聴覚資料・実物資料・図説資料集などの効果的な活用（資料を活用して考察させる）
- 3 言語活動の充実（自ら進んで探求するように調べ学習や課題学習を実施し、レポート作成やプレゼンテーション等によって成果と課題を発表させる）
- 4 ワークシートやプリントの活用

### IV 実践の成果と今後の課題

- 1 一問一答形式ではなく、「なぜ」「どうして」を問う発問を多くすることができた。
- 2 視聴覚資料・教材を活用し、社会的事象の考察をさせることができた。
- 3 クロームブックの活用などを通し、調べ学習や発表などを実施した。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(数 学 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	基礎学力の定着と積極的な思考を促すための授業づくり

### I 重点目標

- 1 基礎学力の定着を図る。
- 2 生徒の考えを引き出す発問の工夫を行う。
- 3 多様な進路に対応できる学力の育成に努める。

### II 研修計画

- 1 校内研究授業
- 2 高教研数学部会総会授業参観、情報交換会
- 3 数学部会研究大会
- 4 他校、他教科の授業研究会や授業研修会の参加

### III 授業改善計画

- 1 授業のはじめに、前時の基本事項を確認する。  
演習時間を多く確保するとともに、生徒同士で教えあう機会をつくる。
- 2 発問では、「なぜか」を問い合わせ、説明させる。  
板書や課題、考査の答案で、過程をきちんと書き数学の用語を用いて説明する  
よう徹底する。
- 3 進路に応じて課題を与え、繰り返し学習させる。

### IV 実践の成果と今後の課題

・新型コロナウィルスの影響により、中止となった研究会等が多かった。休校や出席停止等により学習機会が減少したこともあったが、課題を課し、基本知識の習熟の機会を確保した。また、定期的に課題を課し、添削指導を行うことにより、学習習慣の定着に努め、問題を解く上でどのように考えたかを発表させることにより、論理的に説明する力の育成を図った。また、朝学習に課題を提出し添削指導を行ったり、長期休業中に補習を行い、基礎学力の定着や問題解決力の向上に努めた。3年生には、授業で就職問題や大学入試問題を繰り返し演習するとともに、個別指導により進路実現に向けた学力向上を図った。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

( 理 科 )

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	自然事象を科学的な視点でみつめ、論理的に考える態度の育成

### I 重点目標

- 1 実験・観察を通して、科学への興味、関心を高める。
- 2 日常生活に関連した教材を用い、主体的に学ぶ力と意欲の育成を図る。
- 3 言語活動を積極的に取り入れた授業を展開することによって積極的な学習態度と表現力を育成する。
- 4 教材を精選し基礎学力の定着を図る。

### II 研修計画

- 1 各科目において実験、観察を多くし、発表や説明など言語活動を効果的に取り入れた授業の展開に努める。
- 2 本時のねらいを明示し、日々の出来事や身近な事象を取り上げ、その根拠を探る授業の実践を通して、「わかる授業」の工夫に努める。
- 3 入試問題の傾向や難易度をしっかりと把握し、小テストや単元毎のテストや演習などを通じて生徒へ還元する。

### III 授業改善計画

- 1 実際の教材に触れる機会・体験を増やし、観察やデータを元に結論を導き出す手法と思考を時間をかけながらも継続させる。
- 2 上級学校の試験問題の難易度、傾向把握と情報収集によって教材精選を含めた学力養成を図る。
- 3 発表、討論など言語活動ができるだけ取り入れ、積極性の養成も心がける。

### IV 実践の成果と今後の課題

- 1 実験・観察の実施が、実習助手不在のため、厳しい状況であるが、I C Tの活用などで補っている。新学習指導要領では、実験・観察を「行い」とあるので、科目の専門性を活かした工夫が必要となる。
- 2 専門科目において内容が濃いにもかかわらず、基本単位時数での実施のため、入試対応するのはかなり厳しい。また、生徒の進路希望状況の変化に合わせ、数理コースの必要性と人文コースの基礎なしの履修を検討したい。
- 3 グループ毎に討論させるなど、生徒の主体的な行動を重視した授業を実施しているが、教科のみならず普段の生活においてもコミュニケーションの取り方に問題を抱えた生徒が少なからずおり、対策を検討中である。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(保健体育科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	明るく豊かで、活力ある生活を営む態度の育成。

### I 重点目標

- 1 自己健康管理能力の育成に努める。
- 2 健康・安全に留意し、計画的、継続的に運動ができる能力と態度を育成する。
- 3 運動の楽しさを知り、積極的に運動する態度の育成に努める。

### II 研修計画

- 1 個々の心身状態に関心を持たせ、体力を維持・向上させるための授業
- 2 規律を重んじ、自発的・積極的・協力的に活動する授業

### III 授業改善計画

- 1 運動に関する課題解決能力を育む授業  
体育や保健で身に付けた知識を関連づけ、課題解決に向けた活動を取り入れた授業の充実を図る。
- 2 すべての生徒が運動の楽しさや喜びを味わえる選択制授業の充実  
一人一人の運動経験や技能の程度などを把握した上で、選択制授業を充実させ、自らの選択に基づいた種目への、責任感を持った積極的な参加と各種目の準備や片付け、運営等の実践と体力の向上を目指す。

### IV 実践の成果と今後の課題

#### ○成績

- ・スキルテストと課題解決を結びつけることで、より主体的な活動ができる生徒が増えてきた。
- ・学年が上がるにつれ、各種目における男女共修での活気ある授業の展開ができている。
- ・自分が選択していない種目でも、用具の準備や片付けなどの場面で積極的な協力の態度がみられる。(特に、女子が困難な重い用具の運搬や高いネットのセッティングなど)

#### ○課題

- ・選択制授業を展開する上での各種目の人数の少なさ→校内体育大会の種目エンブリーにも影響する。  
【今年度は、1年普通科男子（1組10人・2組9人、1年総合ビジネス科女子（9人）】
- ・体育や保健で取得した知識の日常生活への取り入れ
- ・基礎体力の低下

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(芸 術 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	基礎的な能力を伸ばし、表現と鑑賞に主体的、協働的に取り組む生 徒の育成

### I 重点目標

- 1 芸術的な感性を育む教材の精選を行う。
- 2 表現や鑑賞の基礎的な能力を伸ばすための基本を指導する。
- 3 美に対する感性を高め、芸術の幅広い自主的実践活動を目指す。

### II 研修計画

#### 〈音楽〉

- ①実技のための楽典、読譜力の向上
- ②西洋音楽、日本音楽の時代的作曲様式観の理解

#### 〈美術〉

- ①理論と実技の一体化
- ②鑑賞の充実

### III 授業改善計画

#### 〈音楽〉

基礎的な楽典学習やリズム打ち、階名唱を通して読譜力の向上を図りながら、表現の能力を伸ばす。また、音楽史や作曲様式の学習と鑑賞を結びつけながら、楽曲の理解や鑑賞の能力の向上を図る。

#### 〈美術〉

表現や鑑賞の実践的活動が主体的に広げられるような視聴覚教材の活用と幅広い分野の鑑賞の充実を図る。

### IV 実践の成果と今後の課題

#### 〈音楽〉

音符、休符、音名、など基礎的な楽典を学習し、楽譜の理解を図った。音楽史の授業では、西洋音楽史だけでなく、日本音楽史と絡めて、歌唱、舞踊の一部を実践したことにより興味関心をもって鑑賞することができた。今後は、リズムアンサンブル活動にも取り組み、表現と鑑賞を関連を図りながら、授業を進めていきたい。

#### 〈美術〉

ICT の活用によって、鑑賞・表現ともにより主体的な活動がみられ、自己肯定感を育むことができた。また基礎的な技術・表現・鑑賞の活動で、理解の定着を図るとともに美への追求へつなげることができた。今後は ICT の更なる活用をとおし、幅広い分野の表現・鑑賞の充実を進めていきたい。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(英 語 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	教科の知識・技能を活用する学習を充実させ、実践的な能力を伸ばす。

## I 重点目標

- 1 家庭学習を習慣づけ、基本事項を定着させる。
- 2 意欲・関心を高め、積極的な学習態度を育成する。
- 3 検定対策・大学受験対策を含め、教材の精選を図り、進路希望に応じた指導を工夫する。
- 4 異文化理解を深め、国際的な感覚・視野をもたせる。

## II 研修計画

- 1 予習、復習の課題を明確にする。  
単語テスト、朝学習、週末課題にしっかりと取り組ませる。
- 2 校内研究授業や校外の研修会に参加し、指導能力向上と授業改善に努める。
- 3 検定対策・大学受験対策の補習や添削指導を行い、主体的な学習習慣を確立させる。
- 4 A L Tとのチームティーチングを積極的に活用し、四技能の実践的能力を育成する。

## III 授業改善計画

- 1 単語テスト、小テスト、週末課題等で基礎力や学習習慣を定着させる。
- 2 新学習指導要領に沿った授業展開について研修する機会を多くもち、校外研修の内容や指導技術を科内で共有し、実践する。
- 3 各種英検対策や、大学進学希望者向けの補習・個別指導を充実させる。

## IV 実践の成果と今後の課題

- 1 予習用のワークやプリント、週末課題等を明確に指示し、各考査毎にチェックして学習状況を確認した。概ね予習やノート作成状況は良好であると感じた。朝学習では、単元で扱う文法事項や新出単語の学習を授業と連動して行い、知識の定着を図った。
- 2 校内授業研修では、コミ英 I (1年生) で A L TとのT Tを実施し、過去完了形を使った表現活動に取り組ませた。指導主事の先生からは、どのような場面でその表現を使うかを生徒に理解させ、意識させることの重要性をご教示いただいた。今後の授業改善に生かしていきたい。
- 3 2年生を中心に進路を見据えて高いレベルの英語力を身につけるために、積極的に受検する姿勢が見られた。長期休業中の補習においては、長文読解やリスニングを取り入れたが、検定の結果を見ても特にリスニング力に課題があり、継続的なトレーニングが必要であると実感した。
- 4 A L TとのT Tでは、Chromebook を使って一人一人が主体的に参加できるプログラムである "kahoot" を使用した授業を行った。接続状況にトラブルも見られたが、生徒たちにとっても、本文の内容が英語で深く理解できるツールとして好評のようだ。I C Tだけでなく、対面でのインタラクティブなやりとりやディスカッションなどにも繋げていきたい。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(家 庭 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	家庭生活に必要な基礎的知識・技術を身につけさせ、生活の充実向上を図ろうとする能力と態度を育てる。

### I 重点目標

- 1 生活の多様化や生徒の実態に即した指導内容を工夫し、学習意欲を高める。
- 2 基本的な知識・技術の定着を図り、成就感を得られるような指導を工夫する。

### II 研修計画

- 1 進路や生徒の実態に即した授業内容の精選。
- 2 様々な体験実習やグループ活動などにより、発見や気づきがある授業の工夫。

### III 授業改善計画

- 1 挨拶、返事、授業態度や提出物などにおいて、社会生活を意識した規律ある授業の雰囲気を作る。
- 2 基礎的知識・技術との関連性を図りながら、発見や気づきが生まれるようなスマールステップアップを意識した実習や体験学習を展開する。

### IV 実践の成果と今後の課題

- 1 始業・終業の挨拶を徹底させ、授業に取り組む姿勢を意識させた。また、板書だけでなくメモをとることを心がけさせ、定期的にノートチェックをした。グループ活動においても、多様に人と関わるように班編制を工夫した。授業・実習においても、意欲的に取り組む雰囲気を作ることができた。
- 2 授業で得た知識を実習で実践し、理解につながるような教材の精選に心がけた。グループ活動や実技実習を通しての気づきは多く、反応も良い。定着につながるように、説明しすぎず、生徒同士が教え合う時間を確保した。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(商 業 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	魅力的な授業づくりに向けた授業改善に取り組むとともに、キャリア教育を重視し、知識・技術を定着させ、自分で課題を見つけよりよく問題解決を図れる確かな学力を持った生徒を育成する。

### I 重点目標

- 1 ペアやグループによる話し合いや発表等の授業方法を取り入れ、魅力ある授業づくりに努める。
- 2 経済社会や実務に即した基礎的・基本的なビジネスに関する知識・技術を習得させるとともに、より高度な資格取得の達成に努める。
- 3 地域と連携し、体験的な学習を進めることにより、社会に総合的に対応できる実践的能力を育てる。
- 4 授業を通して規律指導を行い、経済社会の一員としての心構えやマナーを身につけさせる。

### II 研修計画

- 1 魅力あるビジネス教育を展開するため、経済社会の動向や商業教育の新分野研究を目的とした各種講習会や研究会に積極的に参加し、より専門性を深める。
- 2 生徒の学力向上のために、科内で授業見学や研究会を行い、将来に活かせる知識・技術を育むような授業改善ならびに授業力向上に努める。
- 3 課題研究および理論型経済科目において、時事的問題を教材研究に生かし、生徒の学習への興味・関心を高めることできるよう努める。

### III 授業改善計画

- ・問題演習で終わるのではなく、言葉の意味や取引の内容について生徒の反応を見ながら説明や發問をする。
- ・スキルの面は、繰り返し課題に臨ませて鍛錬し、基礎的技術を定着させる。一方で課題は段階的に、身についた内容を発展的に活用できるように、また、実務で生かせるような設定の工夫をする。
- ・取り上げる教材をできる限り最新なものにし、また実際に即した教材を用いることで、生徒が解決しようという姿勢を持って取り組めるようにする。
- ・地域貢献活動について、3年生を中心に1・2年生も各種の事業に積極的に参加・協力する。

### IV 実践の成果と今後の課題

- ・検定対策中心の授業にならないよう工夫することができた。検定対策についてには、教科書をベースに、副教材を活用しながら段階的な指導をするようにした。
- ・生徒の能力の差が大きく、特に実技を伴う授業についてはT Tを十分に活用した指導を行うことができた。今後も生徒の能力に応じた指導の工夫が求められると考えられるので、適切な教材選びやI C Tを活用した授業について科内で教材研究を進めていきたい。
- ・地域貢献活動については、地元企業の協力を得ながら進めた商品開発と「よこてイースト祭」への参加に留まつた。例年行っている年賀状講習会は、問い合わせがあつた分のみ個人的に対応させていただいた。地域へ出かける活動はなかなか実現しなかつたが、県商研主催のビジネスプランコンテストに参加し入賞することができた。今後も学習の成果を地域だけではなく、各種コンテストや競技大会等へ生かせるように指導をしていきたい。

令和3年度

## 校 内 研 修 記 錄

(情 報 科)

研究主題 (主テーマ)	生徒の主体的・協働的な学びを推進するための 魅力ある授業づくりの実践
教科テーマ	情報社会に対応できる技能と態度を育てる。

### I 重点目標

- 1 情報の収集・加工・発信の能力を育成する。
- 2 情報モラル・マナーなど情報を活用する態度の育成を図る。

### II 研修計画

- ・グループディスカッションや発表会を行うことにより、表現能力やコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・実社会に即した事柄やデータを実習に取り入れながら、各種ソフトウェアの活用能力や情報の表現能力の向上を図る。

### III 授業改善計画

- ・基本的なワープロソフトや表計算ソフトの活用のしかたをしっかり身につけさせる。
- ・卒業後、必要となる情報・通信機器に関わる知識(重要用語)や技術(操作能力)やモラル・マナーをバランス良くかつ全範囲にわたって身につけさせる。
- ・調べ学習、課題作品の作成、発表会、相互評価等において、生徒同士が話し合うことや教え合うことを奨励し、より良い作品の作成・イキイキとした学習活動を目指す。

### IV 実践の成果と今後の課題

(成果)・各種ソフトウェアの活用では、基本的な操作はTT担当と連携して取り組むことができた。また生徒同士でも教え合う場面も多く、個人差は出るようなことがなかった。

(課題)・来年度からプログラミングや情報デザイン等新たな分野が導入されるが、資料や教材については積極的に活用するため、早めに選定していきたい。

## 令和3年度 相互授業参観 実施要項

企画研修部

### 1 目的

教員が教科を超えて互いに授業を参観し、意見等を交換し合うことにより、さまざまな視点から課題・問題点等を見い出し、授業改善の方策を探る。そして、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための魅力ある授業づくりを目指す。

2 期日 令和3年9月6日（月）～9月16日（木）

3 対象 全職員

### 4 実施方法

- ① **自教科と他教科の合わせて、2コマ以上の授業を参観する。**
  - ② 授業者に参観を申込み、**日時・クラス等を決める。**
  - ③ 参観後は、下の「授業参観シート」に**参考になった具体的な点や感想等を記入し、授業者に渡してください。**  
なお、授業参観シートを企画研修部でまとめたいと思いますので、同じ授業参観シートを企画研修部にも提出のほどお願いします。
- ※ 「授業参観シート」はネットワークの共有フォルダにもありますのでご利用ください。  
入力後、次のようにファイル名の後に氏名をつけて保存していただければ、企画研修部への提出はいりません。

保存時のファイル名の例

「授業参観シート 氏名」

#### 授業参観シート

( )月( )日( )校時( )クラス 科目名( )	
授業者( ) 参観者( )	
参考になった点	
感想等	記入のしかたは自由です。 箇条書きでもOKです。

#### 授業参観シート

( )月( )日( )校時( )クラス 科目名( )
----------------------------

## 相互授業参観 まとめ

科 目 名	参考になった点	感 想
地理 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリントと連携させ、電子黒板を活用した授業展開。</li> <li>・生徒の活動的時間(アクティブラーニング)を十分に取った余裕のある時間配分。</li> <li>・身近なニュース、話題を取り入れた補足説明。</li> </ul>	<p>少人数授業を活かした生徒とのコミュニケーションによる深い授業展開が興味深かった。生徒も発問に対して意欲的に思考している様子がうかがえた。自分の授業展開においても、余裕のある授業展開に活かしたいと考えた。</p>
数学Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P D F 化した教科書を電子黒板に写している。</li> <li>・演習の時間を取り理解を深めている。</li> <li>・教え合いが自然とできる生徒の雰囲気ができている。</li> <li>・欲張らず 1 時間 8 間のゆったりとした授業構成である。</li> </ul>	<p>はじめは 1 人で問題を解く時間、後から教え合いや黒板にてて解答を共有する時間と、生徒は区切りが分かったうえでメリハリをつけて取り組んでいると感じた。基本事項をしっかりと定着させようという心構えは見習わなければならないと思った。</p>
生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を活用した授業展開で、生徒が集中して取り組んでいた。</li> <li>・身近な昆虫などを取り上げ生徒の興味関心を高める工夫がされていた。</li> <li>・様々な資料を電子黒板を使い生徒に提供しており、ネタが豊富であった。</li> </ul>	<p>様々な例や情報を電子黒板を活用し生徒に提供されていて、生徒が興味関心を高めて取り組んでいる様子が伺えた。授業準備に時間をかける必要を感じ、自分もいろいろなコンテンツについて調べることで、生徒に情報を伝え、興味関心を高めさせることができると感じた。</p>

英語表現Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板の左端に「本時の流れ」を明示していたので模倣したい。</li> <li>・比較（倍数表現）の基本事項を確認しながら授業を進めていた。</li> <li>・板書に黄色、赤色のチョークを効果的に使っていた。</li> <li>・別の表現で書き換えさせながら、応用力を育成していた。</li> <li>・指名された生徒は起立解答していた。</li> <li>・明るい雰囲気の中、生徒は集中して授業に参加していた。（文法の学習では眠くなる傾向がある。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が積極的に授業に参加していたので、安心した。</li> </ul>
-------	---	---

## 令和3年度 平成高校 校内授業研究会 開催要項

- 1 実施教科 英語科、地歴科
- 2 期日 令和3年10月22日（金）
- 3 日程  
 (1校時～5校時は45分授業)  
 13:40～  
 14:10～15:00 (50分)  
 15:15～16:05 (50分)  
 16:20～16:50 (30分)  
 5校時は全クラス授業参観)  
 清掃・S H R 当該クラス以外は放課  
 研究授業  
 授業研修会  
 全体会（会議室）

- 4 授業一覧 14:10～15:00

教科	科目	単元	対象クラス	使用教室	授業者
英語科	英C I	Lesson 4 part3 Owen and Mzee: An Amazing Friendship	1年2組	1年2組	佐々明子
地歴科	世界史B	2つの世界大戦	3年1・2組	3年1組	栗田未来

- 5 授業研修会 15:15～16:05

教科	会場	記録者
英語科	会議室	大滝
地歴科	保育実習室	沼倉

※班分けは裏面を  
ご覧ください

・会次第

- ① 授業者より感想・反省等
- ② 参観者より意見・感想等
- ③ 指導主事より助言等

・観点

- ・授業について (思考力・判断力・表現力を高めるような授業の工夫等)
- ・教師の働きかけについて (発問の工夫、発言の取上げと発展の工夫、指示の工夫等)
- ・生徒の活動について (意欲的な学習活動、発表のしかた等)
- ・評価について (意欲を引き出す評価、評価の観点や方法の工夫等)

- 6 全体会 16:20～16:50

会場：会議室

記録者：教務部

# 英語科（コミュニケーション英語 I）学習指導案

実施日時：令和3年10月22日（金）6校時

場 所：1年2組教室

対 象：普通科 1年2組

授業者：佐々 明子

ALT Shelby Stark

教科書:Grove English Communication I (文英堂)

## 1 単元名 Lesson 4 Owen And Mzee: An Amazing Friendship

### 2 単元の目標

- (1) 現在完了、SVO(that 節)、過去完了の用法を理解し表現できる。
- (2) 種の異なる動物の友情の物語を読み、お互いを思いやる心や生物や自然との共生について考えることができる。
- (3) 物語の流れを理解し、自分で物語を作り発表できる。

### 3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

適切な接続詞を用いて十分や複文を書くことができる。【Grade 2 書くこと】

### 4 単元観

カバとカメという種を超えた動物の友情の物語を読み、情報の伝え方や話の展開をつかむ。本文中で使われた過去完了を用い、与えられたトピックに沿った物語を自分たち自身で作ることで、文法項目の定着を図りたい。

### 5 生徒観

普通科26名のクラスである。素直で普段は控えめだが、ペアやグループでの活動での自己表現活動には和気藹々と意欲的に取り組む。意欲はあるものの、アウトプットに難儀している生徒も少なからずいるため、日々の授業改善で課題や活動の質を高め、グループで協同的に取り組む姿勢を大切にし、自信を持って表現活動ができるよう励ましていきたい。

### 6 単元の指導計画（総時間10時間）

1時間目・・・Introduction, Part 1 概要把握	7時間目・・・Part 3 概要把握
2時間目・・・Part 1 内容理解の定着	8時間目・・・Part 3 内容理解の定着
3時間目・・・Part 1 文法	9時間目・・・Part 3 文法（本時）
4時間目・・・Part 2 概要把握	10時間目・・・Review（課全体の内容確認）
5時間目・・・Part 2 内容理解の定着	11時間目・・・Writing Activity（表現活動）
6時間目・・・Part 2 文法	

### 7 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
-----------------------	------------	------------	-------------------

・カバとカメの友情の物語を読み、2匹の動物がどうなったのか理解することができる。	・物語の流れや展開をつかみ、自分でも人を引きつけるような話を書くことができる。	・違う種の動物が友情をはぐくみ、お互いを思いやる様子を読み、2匹の心情や行動を読んだり聞いたりできる。	・現在完了、SVO(that節)、過去完了の用法を理解できる。生物や自然との共生について考えることができる。
--	---	---	--

## 8 本時の学習（8／10時間）

### (1) 目標

過去完了を使い、与えられたトピックについて物語を書くことができる。

### (2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 15分	<p>【本時の目標の理解】 ・本時の目標を確認し、活動内容を理解する。</p> <p>【Warm-up】 ・前回の復習として、過去完了についてのポイントを簡単に説明する。 ・Chrombook で Kahoot を使い、過去完了の使い方を理解しているか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を提示する。</li> <li>・ALT が過去完了について、ポイントを板書し、簡単に説明する。</li> <li>・chrombook の接続状況等確認しながら進める。</li> </ul>	

過去完了を使ってストーリー “What a Crazy Day！” を書き、  
過去完了の用法について理解できる。

展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5人のグループをつくる。</li> <li>・ALT から与えられた職業の人物になつたつもりで、“What a Crazy Day!”(大変な一日)の物語を作る。</li> <li>・ストーリーの例を ALT と一緒にスキット形式で実演する。</li> <li>・職業が書かれているカードを用意し、グループに選ばせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つのグループが物語をスキット形式で発表する。</li> <li>・聞き手はメモを取りながら発表を聞く。</li> <li>・聞き手に大まかにどのような話だったか質問をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できごとを順に述べ、Then I realized....(そこで私は... だったと気づいた) という箇所で過去完了を使用させ、意外な展開を狙わせる。</li> <li>・グループで協力してストーリーを作る。</li> <li>・机間巡回をし、英語の表現など、必要なグループに支援する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識し、大きな声ではっきり発表させる。</li> <li>・聞き手も集中して話を聞くように注意する。</li> </ul>	B
--------	--	--	---

【評価】授業後にプリントを回収し、ストーリーの中で過去完了が適切に使われているか確認する。

**Evaluation** 自己評価

【class 2- name ]

A…Very good! B…Good C…not so good

1	Communication with your classmates/partner	A • B • C
2	Positive *attitude toward today's activities *態度	A • B • C
3	Understanding how to use past perfect(過去完了)	A • B • C
4	Making your "Crazy Day" story	A • B • C

\*今日の授業で積極的に活動できたところ・できなかつたところを振り返ろう。日本語・英語どちらでもOK。

# 令和3年度第2回指導主事学校訪問 授業研修会記録【英語科】

記録者 大滝 花子

## 《授業者より感想・反省点》

- ・(佐々) 本時で扱った文法項目「過去完了」の指導では、過去形で表した出来事よりも前のすでに起こってしまったことを考えさせるという点が難しかった。難しい内容だったが、生徒達はよくついてきて頑張っていた。普段の授業では過去形で表現することにも難儀しているが、そのさらに上のレベルの内容にも生徒たちの意欲が見られた。
- ・(Shelby) 過去完了の概念を教えるのはとても難しかったが、生徒達はよく努力して理解しようとしていた。辞書を使って単語を調べる場面が多くあるので、電子辞書のみならずグループで1台 Chromebook を辞書として使わせた。Challenging なレッスンだったが生徒達はよく頑張った。

## 《参観者からの意見・感想等》

### I 思考を促すための発問の工夫

#### ① 参考になる点・良かった点

- ・Chromebook を使ってのクイズ形式の発問を投げかけ、リアルタイムで順位が出るので興味を引き、苦手意識のある生徒にも働きかけることができる。
- ・過去完了形を使ってのストーリーメイキングは難しいが、グループでお互いにアイディアを出し合って論理的思考力が育まれる活動であった。
- ・掲示物や板書が的確で、生徒の活動の手順や考え方を理解させるのに役立っていた。
- ・ストーリーを4コママンガでイメージさせるアイディアが良かった。

#### ②改善点・疑問

- ・生徒の理解度をどのように把握するのか授業語のプリントのチェック等も含めて評価のしかたを確認したい。
- ・理解できていない生徒へのフォローはどうするのか。

#### ③提案など

- ・ALTとのdemonstrationでプリントに4コママンガのイラスト等があれば、より活動のイメージがしやすかったのではないか。
- ・ストーリーメイキングでは、最初にハプニングの内容（4コマ目）を決めさせた方が1～3コマ目を考えるのにスムーズだったのではないか。

## II 表現力育成のための言語活動の工夫

### ①参考になる点・良かった点

- ・Chromebook を使用して英単語を入力したりクイズ形式の発問にタイムリーに答えたりと、実践的な表現力が高められる活動だった。
- ・英語が苦手な生徒がいてもグループでお互いに教え合うことができたり、表現のアイデアを出し合ったりして学び合いができていた。
- ・答えが一つでないため、自由に発言でき、メンバー全員に発表の出番があった。

### ②改善点・疑問

- ・過去形と過去完了形を使うところの指示がもう少し明確にあれば良い。
- ・グループの人数は適切だったか。（3人でも良いのでは）
- ・生徒の発表の声が小さく、全体でシェアできていない場面があった。

### ③提案など

- ・”Kahoot”で答えを入力する問題で、不規則動詞の過去分詞を入力させたらどうか。

#### 《指導主事からの指導助言》

- ・過去完了形で英作文をするのはかなり難易度が高いと思うが、生徒たちはよく反応し、最後まで諦めないで活動していて、日頃の関係性の良さが感じられた。
- ・言語活動では「それを使って何をやらせるか」（本時：過去完了を使って）がポイントで、生徒が主体となる活動を中心とし、それを指導者がフィードバックすることを積み重ねていく必要がある。表現活動では「目的・場面」に応じた使用の適切さも問われる。どの「場面」でどうその表現を使うかが大事で、そのことを生徒に授業の中で気づかせるのが良い。

#### （改善点）

- ・本時の目標が途中からぼやけてきた（生徒との意識のズレが見えてきた）ようだった。生徒はストーリーを作ることに集中してしまった。
- ・説明→Kahoot→ストーリーメイキングという流れの中で、英語で表現させる前に4コママンガを絵で表しイメージさせ、これから何のために何をやるのかを理解させる必要があった。
- ・生徒の書いたストーリーの妥当性の判断…書いたものが正しいか相手に通じるかをフィードバックしもらいたい。
- ・本時の取り組みを点で終わらせずに継続させ、生徒の変容を積み重ねる「成果」にしていただきたい。

# 地理歴史科(世界史B)学習指導案

秋田県立平成高等学校

日 時：令和3年10月22日(金) 6校時

対象生徒：第3学年1・2組(普通科・選択) 21名

使用教科書：高校世界史(山川出版社)

授業者：栗田 未来

## 1 単元名 第14章 二つの世界大戦 5 第二次世界大戦

### 2 単元の目標

- 大戦の背景となる世界の動向や平和な世界を築くための戦後対策、大戦と現代社会とのつながり等に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。 【関心・意欲・態度】
- 19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質を、二つの世界大戦の背景や性格、その後の影響、大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化等と関連させて考察し、適切に表現する。【思考・判断・表現】
- 年表や史料、地図、図版などから、二つの世界大戦の背景や性格、その後の影響、大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化等を読み取る。 【資料活用の技能】
- 二つの世界大戦の背景や性格、その後の影響、大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化や第二次世界大戦に向かう世界の動向を理解する。 【知識・理解】

### 3 単元と生徒

#### (1) 生徒について

本クラスでは歴史に対して関心の高い生徒が多く、教師の発問に対してもそうした生徒を中心に良い反応がみられ、意欲的に学習活動に取り組むことができる。しかし、歴史的概念を導き出すことや論理的な思考に難しさを感じる生徒が多い。そのため、図像資料や視聴覚教材の活用・工夫による学習内容のイメージ化を図ったり、既習事項との学びのつながりをもとに歴史事象の相関や因果などに着目したりする学びが求められる。生徒との意見交流を多く持ち、生徒の言葉をうまく使いながら歴史事象と結びつけ、生徒自身の考えを掘り下げて導いていきたい。

#### (2) 単元について

本単元は、高等学校学習指導要領の「内容(5) 地球世界の到来 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現」における「総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。」に基づいて、構成したものである。

そこで、本単元では、二つの世界大戦を軸に、戦間期の欧米諸国での大衆社会の出現や、アジア・アフリカでの民族運動の高揚、世界恐慌による経済的・社会的影響、社会主義勢力やファシズムの台頭など、ヴェルサイユ・ワシントン体制下における世界の動向や変化を取り上げ、それらを相互に関連させながら学習を進めていく。世界情勢や国際秩序の変化、各国の思惑を背景に、二つの世界大戦の勃発に至る経緯や経過、それぞれの大戦の性格等を多面的・多角的にとらえ、二つの世界大戦がその後の世界に与えた影響や、戦後の国際社会への構想について考察させる。

また、本単元を通して生徒には、過去の戦争だけでなく、現在も世界各地で起きている地域紛争やテロによる脅威、核兵器の問題に目を向け、戦争を防止し、平和で民主的な国際社会を実現しようとする意識をもたせたい。

### (3) 指導にあたって

#### ①思考を促すための発問の工夫

本単元では、「資料を吟味し、既習内容をもとに学びをつないで、根拠をもって二つの世界大戦の背景や性格、その後の影響を考えていく活動」を通して、生徒たちに歴史事象の分析をさせ、二つの世界大戦の歴史における意味を見いださせたい。生徒が自身の歴史像を構築していくことは歴史的思考力を高めることにつながるところである。様々な資料から必要な情報を取捨選択し、それらの資料を根拠にして、多面的・多角的に見て、考えしていくことを学習活動の柱としていきたい。そのためにも、「何か気付くことはないか」「どのような予想が立てられそうか」など生徒の課題意識を醸成するような発問や、生徒自身の考えを掘り下げる、「なぜそう考えたのか」「資料のどこからそう言えるのか」という切り返しの発問を工夫し、生徒の歴史的思考力の育成を図っていく。

#### ②表現力育成のための言語活動の工夫

話合いや学び合いを取り入れて生徒同士の意見交流の場面を充実させ、「伝える」という行為を通して、自分の考えを言葉にしてアウトプットすることに取り組ませていきたい。アウトプットすることで、論理の矛盾やなんとなくわかったつもりになっていること、足りていない知識に気付くことができる。また、他の意見との交流による新たな視点の発見や自身の考えの変容に気付かせ、学び合いによる思考の広がり、深まりを感じ取らせたい。

さらに、生徒同士の意見交流の持ち方として、自由に意見を言い合う部分と互いに考える部分、さらに静かにじっくりと取り組ませる部分のメリハリをつけていく必要がある。教師側の説明を最小限に止めて、生徒自らが問題を解決できるように進めていきたい。

## 4 指導と評価の計画

### (1) 単元計画

単元	小単元	時	学習項目	単元	小単元	時	学習項目
第14章 二つの世界大戦	第一次世界大戦とロシア革命	1	バルカン半島の危機	第14章 二つの世界大戦	4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	13	世界恐慌とその影響
		2	第一次世界大戦①			14	満州事変・日中戦争
		3	第一次世界大戦②			15	ナチスとヴェルサイユ体制の破壊
		4	戦時外交と大戦の結果			16	ソ連とファシズム諸国
		5	ロシア革命			17	ファシズムと大衆社会
	2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	6	ヴェルサイユ体制①		5 第二次世界大戦	18	第二次世界大戦①
		7	ヴェルサイユ体制②			19	第二次世界大戦②
		8	ワシントン体制			20	第二次世界大戦③
		9	1920年代の欧米諸国			21	第二次世界大戦④（本時）
	3 アジア・アフリカ地域の民族運動	10	第一次世界大戦と東アジア			22	第二次世界大戦⑤
		11	東南アジア・インド・西アジアの民族運動①			23	単元のまとめ
		12	東南アジア・インド・西アジアの民族運動②				

### (2) 評価規準

	A:関心・意欲・態度	B:思考・判断・表現	C:資料活用の技能	D:知識・理解
評価の観点	大戦の背景となる世界の動向や、戦後の影響、大戦と現代社会とのつながりなどについて関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	二つの世界大戦の背景や性格、その後の影響について、世界の動向や大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化などの視点から、既習事項を踏まえて多面的・多角的に考察し、自分の考えを適切に表現することができる。	年表や地図、文献、風刺画を含む図像資料などのさまざまな資料から、必要な情報を適切に選択して、読み取ることができる。	大戦に向かう世界の動向をとらえながら、二つの世界大戦の背景や性格、その後の影響、大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化などについて理解し、その知識を身に付けることができる。

## 5 本時の計画（21／23）

### (1) 本時のねらい

各国の立場から多角的に第二次世界大戦参戦の背景・原因を考察し、第二次世界大戦のもつ複合的で複雑な性格に気付くことができる。

### (2) 学習過程

段階	学習活動	教師の支援	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習を振り返る。</li> <li>○ 学習課題を確認する。</li> </ul>		
	<b>学習課題：第二次世界大戦が起きた原因は何だったのか。</b>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 独・伊・日・英・仏・米・ソのグループごとに、その国の指導者の立場でワークシートの吹き出しに入る台詞を考える。 (個→グループ)</li> <li>○ グループごとに考えた台詞を発表する。</li> <li>○ 各グループの発表を基に、第二次世界大戦が起きた原因を考察し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの調べ学習をもとに、当時の世界の動向や既習内容をつなげ、担当した国の思惑を考察させる。</li> <li>・クロームブックを用いて、各国のワークシートに入力しながら思考の過程を整理させる。</li> <li>・共有シートを準備し、各国の立場で考えた台詞を入力させることで、7か国すべての考えを一挙に提示できるようにする。</li> <li>・電子黒板を用いてワークシートを掲示し、理由を明確にして発表させる。</li> <li>・第二次世界大戦の複合的で複雑な性格に気付かせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【思考・判断・表現】</b> (シート、発言) 「それぞれの国の立場から第二次世界大戦の背景や原因を考察しているか」を評価する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【関心・意欲・態度】</b> (シート、発言) 「それぞれの国の立場に立ち、意欲的に第二次世界大戦の背景や原因を追究しようとしているか」を評価する。</p> </div>
終結	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の振り返りと次時の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時にまた違う視点から考察をし、多角的な視点で課題に対するまとめを考えさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【思考・判断・表現】</b> (シート、発表) 「第二次世界大戦のもつ複合的で複雑な性格に気付いているか」を評価する。</p> </div>

# 令和3年度第2回指導主事学校訪問 授業研修会記録【地公科】

記録者 沼倉 徹

## 《授業者より感想・反省点》

- \* 明確な答えが出ない題材に対して、生徒たちがしっかりと向き合い、一生懸命考えてくれた。
- \* 単元を通してICT機器を使用したおかげで、生徒がそれを活用するスキルが確実に向上した。
- \* 生徒たちが考えて発表した内容を、一度受け止めて、補足説明する必要があった。
- \* 概ね、タイムスケジュール通りに授業を終えることができた。欲を言えば「個」の振り返りだけではなく、「全体」の振り返りを行うところまで進めたかった。
- \* ICT機器に起こったトラブルに、ある程度は対応できた。しかし、それが授業における不安要素であることは間違いない。

## 《参観者からの意見・感想等》

### I 思考を促すための発問の工夫

### II 表現力育成のための言語活動の工夫

#### ①参考になる点・良かった点

- \* 資料や時間の「視覚化」が的確だった。「授業のユニバーサルデザイン化」の観点からも、見事な展開だった。
- \* 資料がしっかりと「フォーマット化」されていたおかげで、生徒の思考が正しい方向に向かっていた。
- \* 「Google Jamboard」を有効に活用していた。そのため、「視覚的に思考をまとめる」作業がしやすくなっていた。
- \* 考えた成果が、確実に授業のゴールにつながっていて、生徒たちも達成感を感じていたと思う。
- \* 考えを「発表すること」とそれに対応する「聞くこと」が良くできていた授業だった。
- \* 本時 → 次時への展開がスムーズだったので、生徒たちはワクワク感を持って次時を迎えると思う。

#### ②改善点・疑問

- \* 生徒の思考や結論が、必ずしも正しいわけではないので、間違った記憶を残さないためにも、教員側の補足が必要だと思う。
- \* ICT機器にトラブルはつきものなので、それが起こることを想定して、解決方法や解決できなかった時の代替案を用意しておく必要がある（授業内ではしっかりと対応していたが）。

#### ③提案など

- \* 生徒も授業者もICT機器を使いこなした素晴らしい授業だった。しかし、これを創り上げるまでの「授業者の負担感」はかなり大きい。日常的に今回のような授業を行うことの難しさは、すべての教員の共通の課題だと思う。

## 《指導主事からの指導助言》

- \* 新学習指導要領に明示されている「3つの柱」がよく見えた授業だった。これは、公立学校として、共通に担保されなければならない部分である。他の先生方の手本となる内容だった。
- \* 研究授業は、「普段やっている授業」を見せるよりも大切だが、「普段できないからこそチャレンジしてみる授業」も絶対に必要である。授業者にも参観者にも大きな刺激になる。大いに続けてほしい。
- \* 今回の資料は素晴らしい。一過性のものにせず、さらに発展させてほしい。そして、世界史だけではなく、日本史や地理にも関連させ、「教科の背骨」になる教材作りに励んでほしい。

# 実践的指導力向上研修講座(高等学校8年目)を振り返って

地歴公民科 教諭 栗田 未来

## 1 研修について

(1) 研修名：A-17 実践的指導力向上研修講座(高等学校8年目) I・II

(2) 日時：(I)令和3年6月30日(水) 10:00～16:15  
(II)令和3年8月17日(火) 10:00～16:15

(3) 場所：秋田県総合教育センター

## 2 研修内容

I期 〈講義・演習〉「不登校の未然防止と対応」  
〈講義・演習〉「学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—」  
〈講義・演習〉「カリキュラム・マネジメント」

「不登校の未然防止と対応」では、不登校の兆候を早期発見し、初期対応、再登校支援までの指導方法について講義を受けた。不登校の未然防止のための「居場所づくり」「絆づくり」を意識した学級経営と、初期対応におけるチームでの情報共有、すぐに動くという早い対応を学年のみならず養護教諭等との連携を図りながら行う体制・環境づくりが求められることを学んだ。

組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントの講義では、組織における役割や責任を理解した上で、P D C Aサイクルを実施することの重要性について学んだ。個々の力が組織の力になることを改めて学び、目指すべき姿を具体的に設定して自身を高めていきたいと強く感じた。

II期 〈協議・演習〉授業評価による継続的な授業改善

教科を混合した4名のグループで互いの授業をD V Dで視聴し、それぞれ付箋紙を用いたK J法による協議を行った。他教科の先生方の新しい視点が新鮮で、とても勉強になった。普段他教科の授業を見ることがなかなかないため、創意工夫や困っている点などを共有することで、多角的な協議を行うことができたと感じる。

小・中・高のつながりを意識した授業づくりは、自身の強みだと考えているため、校種ごとにねらいや内容を踏まえた上で、「だから高校でこれを学ぶ(これをができる)のだ」という授業づくりをしていきたい。

### 3 学習指導案

## 地理歴史科(世界史B)学習指導案

秋田県立平成高等学校

日 時：令和3年7月19日(月) 2校時

対象生徒：第3学年1・2組(普通科・選択) 21名

使用教科書：高校世界史(山川出版社)

1. 単元名 第14章 二つの世界大戦 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国

2. 単元の目標

- (1) 大戦の背景となる世界の動向や平和な世界を築くための戦後対策、大戦と現代社会とのつながり等に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質を、二つの戦争の総力戦としての性格やその背景、大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化等と関連させて考察し、適切に表現する。【思考・判断・表現】
- (3) 年表や史料、地図、図版などから、二つの戦争の総力戦としての性格やその背景、大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化等を読み取る 【資料活用の技能】
- (4) 二つの戦争の総力戦としての性格やその背景、大衆社会の出現、国際社会や国際関係の変化や第二次世界大戦に向かう世界の動向を理解する。【知識・理解】

3. 単元計画(第8時以降省略)と本時案

時	学習項目	ねらい
1	バルカン半島の危機	資料から必要な情報を読み取り、第一次世界大戦をめぐる国際関係等の背景や第一次世界大戦勃発の原因を理解することができる。
2	第一次世界大戦	資料の読み取りを通して戦争の状況を多角的に捉え、第一次世界大戦の総力戦としての性格を理解することができる。
3	戦時外交と大戦の結果	第一次世界大戦の影響を様々な面から捉え、その世界史的な意義を考察することができる。
4	ロシア革命	革命の背景や経過、影響について、国際関係の中に位置づけて理解することができる。
5	ヴェルサイユ体制①	14か条の平和原則やヴェルサイユ条約、国際連盟の主な内容を理解し、それらの背景にある戦勝国の思惑について考察することができる。
6 本時	本時の学習(6/22)ヴェルサイユ体制② (1) ねらい 戦勝国・敗戦国の立場から多角的にヴェルサイユ体制を捉え、戦争を抑止するために何が必要なのか考察することができる。 (2) 学習過程	前時の第一次世界大戦後の対策について振り返った後、ヴェルサイユ体制は本当に平和な世界を実現できたのかを問い合わせ、課題意識を醸成する。  個人で考えた後、グループで話し合い、まとめさせる。 戦勝国・敗戦国の立場で考えさせる。 補足資料をchromebookで共有する。 ヴェルサイユ体制の評価点・問題点をもとに考えさせる。 理由を明確にして発表させる。 戦後対策の在り方にについて、第二次世界大戦後の対策や現代社会とのつながりに気付かせる。  【思考・判断・表現】(シート、発表) 「戦勝国・敗戦国それぞれの立場から多角的にヴェルサイユ体制を捉え、ヴェルサイユ体制の評価点・問題点に着目して、戦争を抑止するために何が必要なのか考察しているか」を評価する。
7	本時の学習を振り返る。	戦争を抑止するために何が必要か、戦間期はどのような時代になると予想できるかなどの視点で振り返りをさせる。
7	ワシントン体制	第一次世界大戦後の日本の状況について、アジアやアメリカの動向と関連づけて理解することができる。

## 高等学校新任学年主任研修講座に参加して

1年部主任 佐々 明子

### 期日・場所

第1回 令和3年5月14日(金) 秋田県総合教育センター

第2回 令和3年6月24日(木) 同上

### 対象

高等学校新任学年主任 36名

### 内容・感想

#### 第1回

講義「望まれる学年主任像と学年主任の役割」

…秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 樋口 隆 氏

実践発表「学年経営の実際」…五城目高高等学校 教育専門監 八柳 英子 氏

横手城南高等学校 教諭 福原 幸子 氏

協議「学年経営における課題への対応」…県総合教育センター指導主事 加藤 昌宏 氏

#### 第2回

講義・演習「生徒指導における学年主任の役割」

…秋田県総合教育センター 指導主事 細谷 林子 氏

講義・演習「学年経営と組織マネジメントの基礎」

…秋田県総合教育センター 主任指導主事 羽深 康之 氏

講話 「思春期の揺れと成長をともに歩む」

…秋田赤十字病院診療センター 臨床心理士 丸山 真理子 氏

第1回の「望まれる学年主任像と学年主任の役割」の講義では、前任校でお世話をになった元校長の樋口先生より、学年主任時代の経験から、るべき学年主任の態度や姿勢について伺った。何か問題が起つても慌てず最後まで面倒を見る主任でありたいと思った。また協議では、他校の現状を伺うこともでき、難儀しているのは自分だけではないと心強く感じた。

第2回の「生徒指導における学年主任の役割」の講義では、今の時代のいじめの認識や対応が以前とは全く異なることを改めて意識した。いじめが起きない環境を整えることが最重要であるが、トラブルが起つた際には慎重に問題に当たり、対応を間違えないようにしたい。また「学年経営と組織マネジメントの基礎」では、チームでものごとに当たることの重要性について学んだ。自分も今年度、初めてマネジメントする側の立場になり、同じ業務・行事でも、全て初めてのような心持ちで生活している。自分も学校経営の一躍を担っていることの自覚を持って取り組むことが大事であると気づかされた。また講話「思春期の揺れと成長をともに歩む」では、臨床心理士の丸山先生より、スクールカウンセラーとしての事例を元に、生徒と接する際の心構えや考え方について伺った。よく生徒の様子を確認し、早めに生徒の気持ちの変化を気づくことや、それに対応することの大切さを学んだ。また生徒だけでなく、共に働く先生方への心配りや、また自分自身の健康の大切さについても学ぶことができた。

研修で学んだことを心に刻み、先生方とのチームワークを円滑にし、学年の生徒たちが卒業するまで責任を持って学年経営に取り組みたい。

## 令和3年度 B講座「高等学校保健体育科授業の充実」を受講して

保健体育科 佐藤 浩樹

### はじめに

新学習指導要領の改訂にあたり、改めて「保健体育科の授業づくり」についての講座を受講する機会を得た。授業のみならず、現行の学習指導要領とは異なる評価の観点を含めた、改訂のポイント、秋田県各校の生徒の実態における教科指導上の課題や単元の指導と評価に関連づけた授業の展開について二日間にわたり実施された。

### 期日・場所

令和3年7月1日（木）・2日（金） 秋田県総合教育センター

対象…高等学校保健体育科教諭 15名

目標…学習指導要領の保健体育科の目標及び内容を具現化した授業づくりのための実践力を養う。

### 研修内容

- 1日目 「これから保健体育科の授業づくり①」
  - ・全国、秋田県の生徒の“現状”について
  - ・自校における教科指導上の課題について
  - ・単元の指導と評価の計画について
- 2日目 「これから保健体育科の授業づくり②」
  - ・育成を目指す資質・能力「三つの柱」について
  - ・模擬授業の構想と提示

### 感想

今回の研修は、本県の生徒の現状や自校における教科指導上の課題を考慮しつつ、学習指導要領の改訂に伴った授業の展開と単元の指導と評価の作成についての内容であった。

2日目の模擬授業の構想と実践においては、3班に分かれ、各班でバスケットボール、バレー、ボーリー、バドミントンの各種目を選択し、それぞれ指導（教師）側、生徒側に分かれ行われた。猛暑の中での実技演習であったが、各班とも熱のこもった授業提示の場となり、暑さでキツかつたが、助言あり、笑いありで、お互い楽しみながら充実した研修となり、改めてスポーツ（運動）は“やり方”1つでこんなにも楽しくなるものだと実感した。と同時に、授業の方法と授業での我々教師の関わり方の大切さを感じた。また、指導に対する適切な評価についても、生徒のモチベーションを保持させる上でとても大事なことであると考えさせられた。

### おわりに

今回の研修を終えて、生徒の現状をしっかりと捉えた授業を開発し、一人でも多くの生徒に、授業を通してその良さを伝えていくことが大切だと思った。その授業を受けて、スポーツの良さを理解し、卒業後の日常生活にスポーツ（運動）を積極的に取り入れ、体を動かすことの大切さや自分自身の心や体の変化に気付くだけでなく、スポーツ（運動）を通して、多くの仲間と積極的に交流しストレスをより軽減できるようなライフスタイルを築いてもらいたい。

## 令和3年度 講座番号 B-10 これからの運動部活動の在り方 を終えて

三浦 史聖

### 1 はじめに

運動部活動の顧問となり6年目となった今年、今後の運動部活動の在り方を考える講座を受講する機会をいただいた。感染症防止対策を徹底した中での開催となったため、当初予定されていた協議や実習を行われなかつたが、有意義な講座を受講することができたと感じる。実施講座の概要と感想を以下に記し、報告とする。

### 2 期日・場所

令和3年 5月14日（金）

秋田県総合教育センター

### 3 概要

対象：中学校、高等学校教諭（運動部の顧問で、指導経験が浅い教諭）

目標：運動部活動の望ましい在り方、運営上の留意点等の理解と、危機管理についての実践力を養う。

### 4 研修内容

〈講義・協議〉 運動部活動経営の実際 マネジメント能力①③

〈講義〉 運動部活動指導・運営上の留意点 マネジメント能力①③

〈講義・実習〉 運動部活動での事故防止と応急手当 マネジメント能力③④

運動部活動の経営の実際と運動部活動指導上の留意点においては、生徒への指導に対する適切な距離の取り方を常に考えていかなければ、部活動の円滑な運営を行うことができないことを再認識させられた。また、生徒の高校卒業後の進路が個々人で違うことも考え、部活動としての目標、そして生徒個々人の目標を立て、その目標達成の評価をすることの重要性にも気づくことができた時間であった。

運動部活動での事故防止と応急手当は秋田大学大学院医学系研究科准教授の奥山学氏による講義であった。ここでは打撲、骨折、脱臼、捻挫における症状の判断の仕方やRICEという対処法を学び、さらに熱中症に対する対処法や栄養補給のタイミングや適切な補給方法についてまで学ぶことができた。この研修だけでは実践していくには、不足していると考えられるため、今後自ら学び、知識を身につけ、より安全な部活動運営をしていきたい。また、怪我や体調不良等に関して素人判断は危険であるため、迷わず医療従事者の診断を仰ぐ迅速な対応を心掛けていきたいと考える。

## 編集後記

各教科において、研究主題（テーマ）を設定していただき、相互授業参観や校内授業研究会において活発に活動しました。本年度は各教室に電子黒板が導入され、また生徒一人ひとりに GOOGLE CROMEBOOK も割り当てられました。校内授業研究会でもそれらを活用して、生徒の興味・関心を引き出す授業が行われています。ICT 活用能力など新しい時代に求められる資質・能力の育成へ向けた有意義な研究にもなったかと思います。

最後に研修集録を見ての御意見・御感想等お待ちしております。何なりとお寄せください。

## 令和3年度 研修集録

発行 令和4年3月10日  
編集 秋田県立平成高等学校

TEL 0182-24-1195  
FAX 0182-56-3008

<http://www.heisei-h.akita-pref.ed.jp/wp/>